





## 平成21年度第2次新まちづくり計画施策進行調書(その3)

政策目標	2	主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街
重点課題	3	札幌らしい新産業の育成と企業の誘致
主 な 取 組 内 容		
施策1	札幌の都市イメージを活用した産業の振興	
	19年度(実績)	20年度(実績)
	<p>「スイーツ王国さっぽろ推進協議会」において、スイーツコンペティション、スタンプラリーのほか、さっぽろスイーツのPR事業を実施。また、札幌のスイーツを切り口とするイベントとして新たに「さっぽろオータムスイーツファンタジー」を大通公園で開催(19年9月7日～9日)</p> <p>地元農産物の見本市(スイーツマルシェ)の開催(開催1回、17店200名参加)</p> <p>札幌スタイル推進事業では産学官で構成する有識者会議(札幌スタイル・デザイン会議)により、これまでの事業成果と課題を検討。今後の中長期的な方向性を取りまとめた「札幌スタイル推進戦略」の提言を受けた。</p>	<p>狸小路商店街の空き店舗を活用し、平成20年12月に、民間事業者の運営による「道産食彩HUG(ハグ)」を開設した。スタンプラリーの開催など市民参加型のイベントに加え、「さっぽろオータムフェスト2008」の開催に合わせ、「さっぽろオータムスイーツファンタジー」を実施するなど、幅広くさっぽろスイーツの周知を行った。</p> <p>地元農産物の見本市(スイーツマルシェ)を年2回開催した(22店、390名参加)。</p> <p>「札幌スタイル戦略会議」を設置し、認証基準や審査方法を見直したうえで、新規10製品、更新50製品の認証を行った。また、JRタワーにおける「札幌スタイルショップ」の開設やデザインコンペティションの実施、市内・道外への出展を通して、積極的な周知や販路拡大支援を行った。</p>
	21年度(予定)	22年度(予定)
	<p>平成20年度に設置した「道産食彩HUG(ハグ)」の運営に伴う賃借料相当分を補助する。</p> <p>スタンプラリーの開催等により、引き続き「さっぽろスイーツ」の周知に努めるとともに、道産食品の普及啓発を行う団体が都心においてPR・販売する際の家賃を補助する「『北海道の食を愛するまち』情報発信拠点支援事業」を行う。</p> <p>引き続き、地元農産物の見本市(スイーツマルシェ)を年2回程度開催する。</p> <p>引き続き、「札幌スタイル戦略会議」を開催し、「札幌スタイル」の周知や認証製品の販路拡大を支援する。また、平成20年度のデザインコンペティション入賞作品の製品化に向けた取組を支援し、札幌発のブランドを創出する。</p>	

## 平成21年度第2次新まちづくり計画施策進行調書(その4)

政策目標	2	主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街
重点課題	3	札幌らしい新産業の育成と企業の誘致
主 な 取 組 内 容		
施策2	IT・コンテンツ・バイオなどの新産業の育成・拡大	
19年度(実績)		20年度(実績)
<p>ものづくり(印刷業)及びバイオ分野において、首都圏企業と市内企業とのマッチングを実施 平成19年7月にIT・バイオ産業のビジネスマッチングを横浜で、平成20年1月神戸・大阪においてバイオ産業のビジネスマッチングを開催(3会場の来場者数 500名超) クリエイティブ commonsの普及等を議論する国際会議「アイコモンズサミット2008」の誘致、「創造都市さっぽろ」の考え方を視覚的に表すVI(Visual Identity)策定 ショートフィルム等のコンテンツを年間通じて取引が行える「さっぽろコンテンツマーケット」の構築に向けた調査を実施。 若手クリエイター育成として首都圏の映像制作会社ヘインターン派遣等を実施 ITアーキテクトやプロジェクトマネージャーといった高度IT人材の育成、首都圏発注側企業と市内IT企業とのビジネスマッチング・コーディネート等を実施。 新産業・新技術の事業化支援として、2件の案件を支援した(「サーモンオバリーペプチド第2世代の開発」、「環境に配慮した地域ブランド紙石鱈」の製品化) 新産業の育成等を目的とした北大R&amp;Bパーク推進協議会に参画し、大学の研究開発等を事業化するための支援(3件)を実施 「国際競争力のあるバイオクラスターの形成」を目的に、文部科学省から「知的クラスター創成事業(第 期)」の採択を受け、北大を中心とした研究開発を促進</p>		<p>ものづくり(印刷業)及びバイオ分野における首都圏企業と市内企業とのマッチングを実施するとともに、平成21年3月にビジネス支援サイト「T BONE」を立ち上げた。 平成20年9月に、札幌市において機能性食品・化粧品分野に特化した全国規模のビジネスマッチングを開催したほか、平成21年2月に神戸・大阪においてバイオ産業のビジネスマッチングを開催した(3会場の来場者数 約700名)。 「アイコモンズサミット2008(平成20年7月29日～8月1日、参加者数550人)」を開催したほか、地元クリエイター等の参加による創造都市さっぽろ活用ワークショップを開催した(参加者数53人)。 「さっぽろコンテンツマーケットシステム」が構築・稼動し、コンテンツの取引が可能となった。 若手クリエイターを首都圏の映像制作会社にインターン派遣するなど人材育成を進めるとともに、ロケーション誘致支援業務の体制を強化することにより、ロケ撮影日数が増加された。 研修等の実施により、高度IT人材が育成されたほか、市内IT企業への就職マッチングが進められた。 新産業・新技術の事業化支援として、3件の案件を支援した(「遠隔放射線治療支援システムの開発」、「スマートスイーツ「ライト」の開発」、「ジャガイモYウイルスN系統検出試薬の開発」) 北大BI(ビジネス・インキュベーション)入居者に対し、IM(インキュベーション・マネージャー)を配置するなど、研究開発の促進に向けた支援を行った。 「知的クラスター創成事業(第 期)」として、3テーマ(「免疫・アレルギー改善研究グループ」、「認知小機能改善研究グループ」、「代謝機能改善研究グループ」)の研究開発を進めた。</p>
21年度(予定)		22年度(予定)
<p>環境関連産業分野において、首都圏企業と市内企業とのマッチングを実施するほか、引き続き、ビジネス交流会の開催や「T BONE」の運用を行う。 引き続き、札幌において機能性食品・化粧品分野に特化したビジネスマッチングを開催するとともに、関西地区等におけるビジネスマッチングを開催する。 平成20年度の「創造都市さっぽろ推進会議」からの提言を受け、推進組織を検討するとともに、引き続きワークショップを開催し、創造都市札幌を活用した産業施策の検討を行う。 平成20年度に開設した「コンテンツマーケットシステム」の保守業務を行うとともに、コーディネーターを配置し、システム登録情報の更新や販路開拓の支援等を行う。 引き続き、若手クリエイターを首都圏の映像制作会社に派遣するとともに、ロケーション誘致支援を進め、さっぽろフィルムコミッションの機能強化を図る。 引き続き、高度IT人材の育成や市内IT企業への就職マッチングを進めるほか、札幌イノベーションセンター(SIC)を核に、独自ソフトウェア(SaaS: )等を活用した技術支援を実施する。 引き続き、新産業・新技術の事業化支援を行い、環境・エネルギー 福祉・医療 情報・通信 バイオテクノロジー(ライフサイエンス)関連分野への取組を支援する。 バイオ等の先端企業を支援するため、引き続き、北大BI入居者に対し、賃料補助及びIMの配置による支援を行う。 平成20年度と同様の3テーマについて、引き続き、研究開発を進め、事業化に取り組む。 SaaS(サーズ): Software as a serviceの略。ユーザが必要とするシステム機能を、ネットワークを通じて提供するサービス、あるいはサービスを提供するビジネスモデルのこと。</p>		



## 平成21年度第2次新まちづくり計画施策進行調書(その6)

政策目標	2	主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街	
重点課題	3	札幌らしい新産業の育成と企業の誘致	
評価(成果)		課題	
<b>施策1 札幌の都市イメージを活用した産業の振興</b>			
<p>「食のまち札幌」の推進としては、市民参加型のコンペティションの実施やスタンラリーの開催のほか、「さっぽろオータムフェスト」における出店などを通して、「さっぽろスイーツ」のブランド化が図られ、「スイーツの街さっぽろ」の実現、さらには、食関連産業の活性化に貢献している。</p> <p>「札幌スタイル推進事業」により、異業種企業・人材間の連携が進められている。札幌の都市イメージやデザインを活用した製品が北海道内外で流通し、売上げが増加するなどの成功事例がみられ、地域経済の活性化につながる動きとなっている。</p>		<p>「さっぽろスイーツ」などを都市ブランドとして確立し、競争力のある外需獲得型産業へ育成することで、本市経済を活性化していく必要がある。さらに、北海道産の素材をより活用することで、道内経済循環の拡大を図り、北海道経済を牽引していく必要がある。</p>	
<b>施策2 IT・コンテンツ・バイオなどの新産業の育成・拡大</b>			
<p>高度人材の育成としては、平成18年度からの3年間で800名を超える技術者に対して研修を実施しており、高度なスキルを有した人材や即戦力エンジニアの育成につながっている。</p> <p>コンテンツ産業の振興としては、全国に先駆けて「さっぽろコンテンツマーケットシステム」が構築され、札幌国際短編映画祭に集積しているショートフィルムを中心としたコンテンツの取引が進められた。</p> <p>バイオ産業の振興としては、神戸・大阪におけるバイオマッチングに加え、札幌において機能性食品・化粧品分野に特化した全国規模のバイオビジネスマッチングが開催され、精度の高い商談の場を設定することができた。</p>		<p>IT関連産業は企業の売上がこれまで堅調に伸びていたが、昨今の景気低迷により大きな影響を受けている。首都圏企業等からの下請的な受注に依存する本市の産業構造に起因するものであり、こうした産業構造を転換し、中長期的に堅調な成長が望める体制構築に向けた支援を検討する必要がある。また、本市バイオ産業では大半の企業が資金、人材及び販路等で課題を抱えており、有望な技術・素材を活かすため、販路拡大や企業連携の支援を強化していく必要がある。</p>	
<b>施策3 札幌の優位性を活かした企業の誘致</b>			
<p>IT、コンテンツ、バイオ産業の誘致については、平成20年度の達成目標は4社であったが、実績は9社であった。これらの産業を誘致することにより、安定した雇用の創出、産業集積、及び産業の高度化等につながり、札幌らしい新産業の育成と企業の誘致に効果があった。</p> <p>コールセンター・ニュービジネスの誘致については、平成20年度に6社が新たに札幌市に立地した。このことに伴い、雇用の創出、市税収入の増加等が図られ、地域経済の活性化に寄与している。</p>		<p>札幌の優位性を活かした企業の誘致という観点では、多くの自治体が地域特性を活かした企業誘致を進めており、地域間の競争は激化しつつあることから、本市単独ではなく、北海道の制度の活用や石狩市など周辺市町村との連携により誘致活動を強化していく必要がある。</p>	
<b>今後の重点取組</b>			
<p>今後成長が期待でき、かつ札幌の強みである食関連産業の競争力を高めるために、これまで培ってきた企業・関係団体のネットワークや情報等を十分活用し、生産から加工、販路拡大までの総合的な支援を展開していく。また、北海道との連携をより一層深めることで、道産の食の消費促進を啓発し、道内経済、さらには本市経済の活性化を図っていく。</p> <p>IT関連産業は下請的な受託型の産業構造から脱却するために、高度な技術を有した人材の育成支援の他、SaaSを活用した販路拡大など新しいビジネスモデルの創出や、大型案件の受注拡大に資する協業化のための支援を進めていく。また、バイオ産業については、最大の課題である販路拡大・企業連携を支援するため、国内外の地域・企業との連携をさらに促進していく。</p> <p>石狩市を始めとした札幌広域圏と連携した企業誘致施策を展開し、札幌経済圏として企業立地の優位性を対外的にPRしていく。また、北海道の産業振興条例の施行規則が改正されたことに伴い、現在、北海道の立地支援制度と連携した新たな立地支援制度の検討を進めており、札幌の地域特性を活かした企業誘致を今後、さらに促進していく。</p>			

## 平成21年度第2次新まちづくり計画施策進行調書(その7)

政策目標	2	主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街												
重点課題	3	札幌らしい新産業の育成と企業の誘致												
成果指標等の動向														
項目1	スイーツ王国さっぽろ推進協議会への参画会員数(単位:社)													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>会員数(社)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18 (現状値)</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>H22 (目標値)</td> <td>170</td> </tr> </tbody> </table>		年度	会員数(社)	H18 (現状値)	85	H19	130	H20	134	H21	134	H22 (目標値)	170
年度	会員数(社)													
H18 (現状値)	85													
H19	130													
H20	134													
H21	134													
H22 (目標値)	170													
項目2	札幌スタイル認証製品数(単位:件)													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>製品数(件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18 (現状値)</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>H22 (目標値)</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		年度	製品数(件)	H18 (現状値)	56	H19	56	H20	95	H21	95	H22 (目標値)	100
年度	製品数(件)													
H18 (現状値)	56													
H19	56													
H20	95													
H21	95													
H22 (目標値)	100													
項目3	取引可能な映像作品等の集積本数(累計、単位:本)													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>集積本数(本)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18 (現状値)</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>3,850</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>6,666</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>6,666</td> </tr> <tr> <td>H22 (目標値)</td> <td>10,000</td> </tr> </tbody> </table>		年度	集積本数(本)	H18 (現状値)	1,500	H19	3,850	H20	6,666	H21	6,666	H22 (目標値)	10,000
年度	集積本数(本)													
H18 (現状値)	1,500													
H19	3,850													
H20	6,666													
H21	6,666													
H22 (目標値)	10,000													
項目4	大学の共同研究・受託研究実績(単位:件)													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績数(件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18 (現状値)</td> <td>821</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>852</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>922</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>922</td> </tr> <tr> <td>H22 (目標値)</td> <td>1,000</td> </tr> </tbody> </table>		年度	実績数(件)	H18 (現状値)	821	H19	852	H20	922	H21	922	H22 (目標値)	1,000
年度	実績数(件)													
H18 (現状値)	821													
H19	852													
H20	922													
H21	922													
H22 (目標値)	1,000													
項目5	IT・コンテンツ・パイオ企業及びコールセンター・ニュービジネスの誘致数(単位:社)													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>誘致数(社)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18 (現状値)</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H22 (目標値)</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>		年度	誘致数(社)	H18 (現状値)	39	H19	45	H20	60	H21	60	H22 (目標値)	75
年度	誘致数(社)													
H18 (現状値)	39													
H19	45													
H20	60													
H21	60													
H22 (目標値)	75													
成果指標等から見た重点課題の評価														
<p>「スイーツ王国さっぽろ推進協議会への参加会員数(項目1)」は、着実に増加している。今後とも、「札幌の食」というブランドの確立に向けて、企業が参画するメリットを打ち出しながら、より多くの市内企業の参画を促していく。</p> <p>「札幌スタイル認証製品数(項目2)」は、平成20年度に認証基準の見直しを行い、既存の認証製品も更新審査の対象とした。引き続き札幌スタイルの認知度の向上に向けた取組を行い、認証を行っていく。</p> <p>「取引可能な映像作品等の集積本数(項目3)」は、「さっぽろコンテンツマーケットシステム」が構築され、札幌国際短編映画祭を通じて蓄積した世界中の短編映画の活用が図られていることから、大幅な増加となった。今後とも、コーディネーターの配置等により、マーケットシステムを有効に機能させ、コンテンツ産業における商取引の活性化を図っていく。</p> <p>「大学の共同研究・受託研究業績(項目4)」は、文部科学省から採択を受けた「知的クラスター創成事業(第 期)」や「北大BI(ビジネス・インキュベーション)」の開設等により、順調な増加を示した。引き続き、地元企業の参画の促進させるなど、札幌の強みを活かした研究開発を行い、研究成果の製品化・事業家を促進させていく。</p> <p>「IT・コンテンツ・パイオ企業及びコールセンター・ニュービジネスの誘致数(項目5)」は、景気後退により企業が新たな投資を抑制しているなか、順調に伸びている。今後とも、市税収入の増加や安定した雇用の創出のためにも、誘致数を増加させ、地域経済の活性化に結び付けていく。</p> <p>引き続き、「札幌らしい新産業の育成と企業の誘致」を推進し、平成22年度の計画目標に向け、注力していく。</p>														